御松曳

甲斐之國 丹波山

Photo by Tamotsu Ogawa　Handwriting by Shunpo Watanabe

2020年1月7日（火）

【会場】丹波山村熊野神社前

【時間】13:30 ～ 16:00

主催：丹波山村文化財保存会　後援：丹波山村役場

丹波山へのアクセス

【車で】

中央高速道路八王子I.Cから90分、上野原I.Cから70分

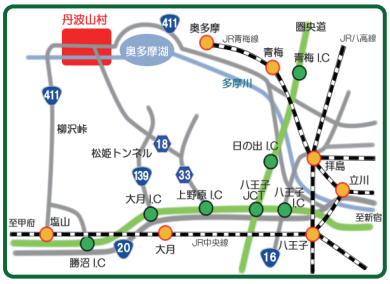
大月I.Cから60分、勝沼I.Cから60分

圏央道青梅I.Cから90分、日の出I.Cから80分

【電車+バスで】

JR青梅線奥多摩駅から西東京バス丹波行終点下車

奥多摩駅発丹波行き　12:25→13:19着



木遣唄

『恵比寿』

やるわいな
やると云うたら　やるわいな
目出度いことにて　申すなら
恵比寿様という人は
一に俵を踏んまいて
二ににっこり　笑うて
三に盃　手に受けて
四に世の中　良いように
五で泉の湧くように
六で無病息災に
七で何事ないように
八で屋敷を買い広げ
九ツ小倉を打ち建てて
十でとっくり納まうたぞえ
エンヤラヤーァ

『燕』

ツバクロが　ツバクロが
常磐の国から是れに来て
お家の軒へと巣をかけて
十二の卵を　産みそろえ
二十日余日を　温めて
最早や　卵も雛となり
雄鳥が餌バミ行くときは
雌鳥は巣にて　子を愛し
雌鳥が餌バミ行くときは
雄鳥は巣にて　子を愛し
蝶よ花よと守り育て
常磐の国へと立つときは
お家繁盛と
鳴き立つぞえ
エンヤラヤーァ

「御松曳」とは？

１月７日に催される丹波山のお正月の門松送りの祭事で、300 年以上の歴史があります。朝、正月飾りや門松を各家から熊野神社の前に持ち寄り、修羅と呼ばれるＹ字形の大木の木ゾリの上に積み上げて御松様と呼ばれる山車を作ります。午後からは修羅につけられた２本の綱を、村人総出で道祖神まで曳いていきます。木遣りの音頭が響く中、「ヨーイヨイ」とかけ声をかけながら、重さ約２トンの御松様が進んでいきます。

Point1 七草粥

御松曳の朝は、どの家庭でも一年間の無病息災を祈って七草粥をいただきます。そして玄関の松飾りにもお供えします。

Point2 修羅

修羅は古墳時代から使われていた運搬具の一種ですが、まだ生きた道具として使われているのは日本中で、ここ丹波山だけ。それが奇祭と呼ばれる所以です。

Point3 空飛ぶミカン

街道や御松様からはミカンが投げ込まれます。このミカンを食べると一年間病気をしないといわれています。上手にキャッチしてくださいね！

Point4 丹波締め

道祖神についたら、丹波締めでお開きです。一般的な三本締めとはリズムがちがい、「パンパンパン、パンパンパン、パン」が丹波締めです。

Point5 御松焼き

御松様は道祖神の前で解体されます。使われた松は１月 14 日の「御松焼き」で、無病息災を祈って焼かれます。こうして丹波のお正月が終わります。

ふるまい酒は、奥多摩の銘酒「澤ノ井」飲み放題です♪

丹波山のおいしいモノ大集合！
飲食コーナーもあります。

岡山県新庄村の「ひめのもち」の振る舞いも！